

# 伊藤園との連携による静岡牧之原茶PR事業について

市内に工場を有する(株)伊藤園と茶産地である牧之原市が連携し、東京から若者を招き牧之原のよさを知ってもらうとともに、お茶を通して牧之原市に新たな魅力アップのアイデアを茶ッカソンの手法により検討、提案をしてもらった。(参加者約40人)

平成28年4月16日(土) 牧之原市(茶園見学、手摘み、座禅、グループワーク)  
平成28年4月24日(日) 東京都(グループワーク、発表、審査)

茶ッカソンとは

「茶」×「ハッカソン」(ハッカソンとは、主にIT関連の人たちの間で行われている技術とアイデアを競い合う開発イベントの一種。)茶ッカソンでは、最初に座禅をし、お茶を飲み、心を整えてからアイデア出しをするのが特徴です。Feeling(感覚)とlogic(理論)の両方を高めることによって新しいアイデアを出やすくします。

テーマ

牧之原市をCreative City(クリエイティブ・シティ)にするには?

## 入賞したチームのアイデア(8チーム中上位4チーム)

<b>優勝</b>	<b>「チーム ちゃになる」</b>
イベントを通じてたくさんのクリエイター(デザイナー、研究者、ライターなど)を牧之原市に呼び、クリエイターが先生となり子供たちをクリエイティブに育成するという包括的で長期的なアイデア「ちゃになる」町全体を学校にしよう。 水をお茶にするってとてもクリエイティブ。 水と茶葉が会いお茶になる。これを人に例えるとアイデア、素材を手に入れ、牧之原市でクリエイティブになる。 クリエイターに空き家・古民家をリノベーションし、住宅、工房、スタジオとして賃貸する。	
<b>2位</b>	<b>「チーム アラカルト」</b>
牧之原寺茶論 お茶の一大産地であり、コンビニより寺の数が多いという牧之原市の特色に注目したリアルとWEBが融合したサロン「寺茶論(てらさろん)」 まち全体はお茶によるクリエイティブな学びの場になる。 ⇒牧之原市の「本物のお茶と、壮大な茶園、点在するお寺」そこで、市民を巻き込んだ「一期一会のおもてなしによってクリエイティブな交流が生まれる。 学びの場で生まれた体験やアイデアをクリエイターによってWebサイトで可視化する。	
<b>3位</b>	<b>「チーム 東京プラス」</b>
牧之原市を舞台としたすれ違う夫婦をつなげる旅行プランをモデルに、人と人のすれ違いを解決する「コムンシティ」という考え方	
<b>特別賞</b>	<b>「チーム180度」</b>
お茶版ワイナリー「茶イナリー」の発表。移住ではなくパートナーシップの関係。牧之原市のお茶の魅力を発信する。お茶づくりに関われるお茶好きのためのコミュニティ案。(収穫の権利、茶葉・茶畑・茶関連の商品、商品をプロデュースする権利) お茶好きのためのファンコミュニティ 1 そだいる(牧之原市に自分の茶畑がもてる)、 2 つながる(年1回春に茶摘み祭でオーナー同士が集まるイベントに行ける。) 3 オリジナリティ(自分の名前、好きなデザインでパッケージが作れる。) 単に茶畑を売るのではなく、日本人の丁寧な気持ちを伝える。 茶イナリーは茶の和の心をマッチンさせるシステム。	

市では、今回の「茶ッカソン」の参加者、伊藤園と共同で、今回の発表、提案の実現に向けて取り組んでいきます。